

不当処分粉碎 雨中をういて360名怒りの総結集

日刊 動労千葉

81.9.10
No.842

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六(公衆)四三三(22)七二〇七

動労本部反動分子のデッチ上げ 告訴に便乗した不当処分糾弾!

九月八日、国鉄当局は、動労「本部」反動分子による「六・一二津田沼事件」デッチ上げを唯一の理由として、津田沼支部の六名の仲間へ不当処分を通告してきた。
動労「本部」反動分子と一体となった理不尽極まりないこの暴挙に対し、同日十七時半より千鉄局前で開催された「九・八不当処分粉碎・動労千葉総決起集会」には、悪天候、風雨をういて各支部より三百六十名が結集し、国鉄当局に対する怒りをたたきつけた。

闘うがゆえにかけられた組織破壊攻撃

強い横なぐりの風、ふりしきる雨の中、集会は十七時三十分過ぎ、本部吉岡教宣部長の司会で始められた。

本部闘争委員会を代表して挨拶に立った関川委員長は「度重なる動労千葉への組織破壊攻撃は三里塚を闘うがゆえにかけられた攻撃である。われわれは、不当処分を加えられた仲間を守り労働運動の真の道を求めて闘い抜こう」という決意を行った。

続いて、動労顧問弁護団の菅野氏より力強い激励の挨拶が行われた。

集会の基調提起を行った本部布施副委員長は、この処分攻撃について、第一に、デッチ上げ「六・一二津田沼事件」を利用した労働組合潰しであること。第二に処分理由が検察権力の「勾留請求」「起訴状」のみを根拠にした「現認報告」なきデタラメなものであり、明らかに国鉄三十五万人体制を遂行せんがための八〇年代型労務管理政策「第二マル生攻撃」の新たな展開であること。第三



怒りをこめ戦陣宣言を發する六名の仲間。

に、今日までの闘い、とりわけマル生粉碎闘争、船橋事故に対する運動保安、休職解除の闘いの中でかちとってきたすべてをうばい取るうという攻撃であること。

従ってわれわれは、こうした国鉄当局の狙いを見すえ、より団結をつよめ、「反合・三里塚ジェット闘争」の貫徹こそ一切の勝利する道であると提起され、全体の拍手で確認した。

六名の仲間より力強い決意表明

基調報告をうけて、津田沼支部の仲間一岡支部長、吉岡(一)青年部長、篠塚君、深見乗務員会長、重見書記長、小倉執行委員がそれぞれ決意表明にたった。

「われわれは、百パーセントデッチ上げによる不当弾圧、不当処分に腹の底からの怒りを叩きつけた。この反動の元凶、動労「本部」反動分子、土屋粹一派を解体・一掃するまで闘い抜く。警察労働組合となりはてた、やつらに憎しみと怒りを、闘いをもって粉碎してゆく」という力のこもった決意表明が行われた。

決意表明の最後に、山下津田沼支部長、崎新小岩支部長より、六名の仲間をつつんで最後の勝利まで共に闘い抜く決意と激励のあいさつがされた。

この後、田中青年部長の雨中をつらぬくシュプレヒコール、関川委員長の団結ガンバローをもって集会は成功裡に終了した。

全組合員のみなさん!

こうした不当な動労千葉への組織破壊攻撃に双手を上げて賛同し、処分要請を行う動労「本部」反動分子、この要請に便乗し、組合つぶしを意図した国鉄当局に対し、怒りも新たに反撃の闘いに立ち上がる。

不当処分を全力で粉碎し、三月ジェット決戦を闘い抜いた力を倍加する闘いをもって、公判闘争に勝利してゆこう。

今秋、動労千葉第六回定期大会の圧倒的成功をかちとり、一〇・一一三里塚現地総決起をつくり出し、着実な前進の中から動労大改革へ向けて力強くつきすすんでいこう。